

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
所 長	<p>開会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 皆様には日ごろ学校教育・理科教育の専門的な立場からのご支援おいただき感謝する。 ○ 今回は、天地人サイエンスプロジェクト実行委員の畑川様にも出席いただき、今年度の事業についてご説明いただく。 ○ 新潟県地区理科センター連絡協議会の事業の一環として、小学校教諭を対象とした意識調査が実施される。また、全国学力学習状況調査が3年ぶりに理科で実施される。今年度は理科教育センターが今後どのように理科教育に貢献していくか分析していく1年になる。 ○ 令和6年度の事業報告、令和7年度の事業計画案が説明される。忌憚のない意見をいただきたい。
事務局（古塩）	<p>(1) 令和6年度実施事業報告〔資料・スライドに基づき説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 研修事業 ② 児童生徒・一般対象事業 ③ 研究事業 ④ 奉仕事業
運営委員1	<p>【質疑・応答】</p> <p>・「いきいきわくわく科学賞」の応募について</p> <p>「いきいきわくわく科学賞」の東北電力社賞は中断があったのでは？（←事務局から中断はないとの回答）。佐渡地区から出品の「～納豆オリンピック★目指せ！！「菌」メダル★～」は子どもらしい発想だと感心した。</p>
事務局（古塩）	<p>(2) 令和7年度の運営について(案)〔資料・スライドに基づき説明〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ① 運営の基本方針(案) ② 運営の重点(案) ③ 事業の内容(案) ④ 予算(案) <p>○ 事業運営は、基本的には前年度と変わらない。「1.研修事業」はほぼ前年度を踏襲。他に改善点として、「2.児童生徒・一般対象事業」の中の(1)「子どものための科学祭り」に「天地人サイエンスプロジェクト」の同時開催を検討、(2)児童生徒科学研究発表会における発表要項やプレゼン資料のデジタル化、が挙げられる。</p>

<p>運営委員 1</p>	<p>【質疑・応答】</p> <p>・「<u>児童生徒科学研究発表会</u>」の要項等デジタル化について</p> <p>「科学研究発表会」をデジタルデータで残すのは良い事と思うが、先生方の負担が心配。中学生は自分でできるが、小学生には難しいので、手書きをデジタルデータにできれば良いのでは。先生が打ち直すことになっても、子どもたちの先生を見る目が違ってくる。また、先生自身の勉強にもなる。問題は時間が十分なのかという点。県（いきいきわくわく科学賞）とのつながりも考慮して欲しい。</p> <p>→ 子どもたちの資料の作成は、打ち直し/手書きの写真撮影のどちらでも良いよう考えている。「いきいきわくわく科学賞」は作成の方法について特に規定はない。（事務局）</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>(3) その他</p> <p>天・地・人サイエンスプロジェクト実行委員より提案</p>
<p>オブザーバー</p>	<p>・「<u>天地人サイエンスプロジェクト</u>」の同時開催について</p> <p>「佐渡島SDGs天・地・人サイエンスプロジェクト」（以下、天地人SP）の事務局を担当している。本日は本間芳和执行委員長が都合により出席できないので、代わりに出席させてもらった。</p> <p>「いきいきわくわく科学賞」も担当し、12月の表彰式に佐渡の出品作品にコメントさせてもらい、すごいと思った。佐渡以外にも県内の子どもたちの作品に接し、先生方のご努力は素晴らしいと改めて感じた。</p> <p>これまで3回「天地人SP」を実施し、実績2回分を資料で持参したので参考にして欲しい。前回の会議では出席の実行委員から同時開催について事前説明が不十分で不信を招いたことをお詫びする。改めて実行委員会で考え方をまとめたものを発表させてもらう。</p> <p>佐渡の子どもたちの科学教育に対する先生方の長年の活動に敬意を表するとともに、今後の発展に欠かせないものと思う。「天地人SP」は、佐渡ゆかりの先生方が発起人となって立ち上げたもの。コロナの発生で開始が遅れたが、毎年7月の最終の土日にアミューズメント佐渡で実施することで過去3年実施した。基本的には佐渡の子どもたちにサイエンスを伝えたいが、高校生や大人の科学好きな人も対象にしている。</p> <p>「天地」はサイエンス、「人」は佐渡の歴史・文化であり同時に伝えることを意図している。令和6年度は、佐渡島内外の子どもたちや高校生を対象にアミューズメント佐渡を会場にしたが、世界遺産登録と日が被り、宿泊場所が取れなかった。佐渡で講演会を実施後、新潟のメディアシップに移り2会場となった。今回は原点に戻って佐渡の子どもたちに向けた取り組みとしたい。</p>

<p><続き></p>	<p>サイエンスを伝えるという点で共通しており、「天地人SP」と「科学祭り」を上手に組み分けして、補完できれば良いと思っている。</p> <p>新潟日報社は「子どもフィールドサイエンス」として島外の科学好きの子どもたちに参加してもらってバスでジオパーク佐渡を回るなど佐渡の子どもとの交流を行っている。今年度もこの事業を実施したい。</p> <p>「科学祭り」は9月14～15日の開催。同じ会場で「科学祭り」の邪魔をしないよう空いているスペースで実施したい。まだ内容は固まっていないが、9月14日午後に空いた2階で「天地人」の部屋を作り、佐渡のサイエンスをテーマに小中学生や保護者の方たちと交流し、トークをすることを考えている。9月15日は基本的には大ホールのホワイエで「ワークショップ」を実施する。「ワークショップ」は「科学祭り」の科学教室と被らないよう新潟県内外の協力関係にある大学（日本大学、東京理科大学、長岡造形大学 他）に3～4ヶ所設置してもらおう。「子どもフィールドサイエンス」の島外の子どもたちには9月14日午後から参加してもらい、15日にはジオパークを回る。「科学祭り」と「天地人SP」は同じ会場だが組み分けし、トータルでいろんな科学に触れる機会ができるようにしたい。</p> <p>先生方の負担軽減を考慮し、当初予定していたマッピングの取り組みは取り止めとし、「天地人SP」の運営は先生方や理科教育センターの負担とならないよう進める。</p> <p>広報は、新潟日報社で発行する新聞・チラシなどで、佐渡島内にはチラシ、島外では新聞などにより「科学祭り」とは別に行う。別々の広報になるが、お互いにリンクを貼れるようにしたい。</p> <p>違う要素が入るが、子どもたちに良い形となるよう同時開催とさせてもらいたい。同じ会場で開催すると一緒のものともみられるので総合受付を設置し、来場者の不便にならないようにしたい。</p>
<p>運営委員 2</p> <p>オブザーバー</p>	<p>【質疑・応答】</p> <p>・「天地人SP」の同時開催について</p> <p>基本的には一緒に開催するのは良いのではないかと。「科学作品展」には必ず家族が同伴しているので、その分専門的な目で科学に触れる機会ができる。2つのものが競合しないよう調整し合うことが大事。例えば9月14日午後に「おもちゃコンテスト」と「ワークショップ」がダブるが微妙にずらすことを考えているか。</p> <p>9月14日午後に「おもちゃコンテスト」と「ワークショップ」は競合する時間帯があり、調整は難しい。</p>

<p>運営委員 2</p> <p>オブザーバー</p>	<p>「おもちゃコンテスト」の子どもたち・保護者が来て発表する時間は確保されるが、出入りもあり期待できる点もある。ホワイエと 2 階の科学教室との距離がやや遠いのでは。分けた方が良いのか、あるいは別々の主催だが近くに 1 ケ所でまとめてやってはどうか。「科学祭り」の科学体験教室の 6 ブースの数を調整することもあるのでは。</p> <p>場所は確かに離れていて広い空間はあるが、相当な人数が入るので、どうだろうか。</p>
<p>運営委員 1</p> <p>オブザーバー</p> <p>運営委員 1</p>	<p>「天地人 S P」は上から目線であると思う。子どもがあくまで主役である。子どもたちや親御さんがどういう意見を持っているのか。子供たちの意見を聞いているか。なぜ聞かないのか。</p> <p>新潟で行ったワークショップでアンケートは実施したが、時期を一緒にすることは聞いていない。</p> <p>実行委員会がサボったのではないか。子どもたちが主役でありその意見を聞かずにやるのは間違い。今の時期、学校現場では春休みを返上し、土日を返上し、勤務時間返上でサービス残業をして年間指導計画を立て、長期計画立て直している。計画の変更は先生方に負担をかける。マラソンの途中に障害物を置いたようなもの。先生たちに新たな負担をかけないのが最優先と書いてあるが、子どものことも学校現場も考えていない。前回もオブザーバーが説明をしたが、あきれて誰も何も言えなかった。やらないのが一番負担がかからない。ただし、私だけの判断ではやるやらないは決められない。理科教育センターの他、小学校教育研究会、中学校教育研究会があり、教育委員会もある。</p>
<p>山田 所長</p>	<p>運営委員 1 が、真摯に考えていただいていることは有難く思う。ただ、同時開催は子供たちにとっては魅力的なものになるという可能性がある。今の意見を反映し、先生方の負担を極力排除して詳細を進めていくということかどうか。これから子どもたちに意見を聞くすべはないので、今年度開催する機会に何らかの形でアンケートなどを用意し、全員とはならないが、参加した皆さんの意見を聞くということかどうか。</p>
<p>運営委員 1</p> <p>オブザーバー</p>	<p>去年、参加者へのアンケートで一緒にやってはどうかという意見はなかったのか。何故一緒にやろうとの意見になったのか。</p> <p>アンケートにそのような意見はなかった。7 月終わりの土日に実施したが、もう少し来場者が欲しかった。広報が足りないという面もあったが、夏に 2 つのイベントがあるより、1 つにした方が集中して来やすいのではという意見が出た。</p>

運営委員 1	<p>2月の会議の後、保護者の1人に「科学作品展」と「天地人SP」の同時開催について意見を聞いた。完全に同時間でなければ、混みあうかもしれないが「科学作品展」のアンテナに引っかからない人に広く伝えるのではないかとのこと。親に興味がないと行かないことが多い。そのお子さんは行くことに消極的なので、どちらでも良いとのことだった。</p>
司 会	<p>・議論のまとめ</p> <p>いままでの議論を集約すると：</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 「科学祭り」「天地人SP」を同日に開催する。ただし、教職員・児童生徒に負担がかからないように。 2) 準備・運営は別々に行う。参加する子どもたちがあっちに行ったりこっちに来たりはあるだろう。 3) 同じ会場で運営が別々で会場が広すぎると移動が大変になるので、なるべくコンパクトに。 4) 同時開催に対する要望・メリットのエビデンスは今のところない。今年度、参加者及び運営側にアンケートを実施し、メリット・良くなかった点を確認し、改善して今後のウィンウィンの開催を目指す。 <p>同時開催のメリットはやってみないと分からない。「科学作品展」には出品した子どもは来ていると思う。参加した小学生にアンケートをお願いしたところ、出品はしていなかったが、「すごい作品がいっぱいあった。僕も出せばよかった。」と意見を書いてくれた。出品していなくとも科学に触れる機会があるということで興味・関心・意欲を引き出せると思う。「科学祭り」だけでも良いが、「天地人SP」との同時開催で子どもも保護者も科学への意欲を増せるのではないか。</p>
次 長	<p>・閉会あいさつ</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 年度初めの多忙な中での出席、感謝申し上げる。 ○ 説明資料にあるように、指導力向上研修・佐渡学研修など佐渡の子供たちに与える理科の影響力や重要性を実感できた。 ○ 私自身理科教育センターの研修を多く参加したが、思い出に残ることとして、加茂湖のアシ原の研修、金井のサドガエルがあり、No1は磯の生物研修であった。海中に知らない生き物がたくさんいて、浅い海に大きな魚が泳いでいて感激した。学校に持ち帰って教科書の中身と実体験をつなげることができる。時間の許す限り参加してみたい。 ○ 理科教育センターの果たす役割は大きいと思う。今後とも当所の事業への協力を願いたい。

